

令和7年度版
中学道徳

指導書活用私の提案

兵庫県 佐用町立佐用中学校 教頭 伊勢 幸弘

もくじ

はじめに

- ① 指導書の“ここが変わった！”
- ② 授業準備で活用！ **朱書編**
- ③ 授業準備で活用！ **解説編**
- ④ 授業中に活用！ **朱書編** **デジタルコンテンツ**
- ⑤ 校内・自己研修で活用！ **解説編** **デジタルコンテンツ**

おわりに

授業も評価も充実！



中学道徳あすを生きる教師用指導書 セット内容

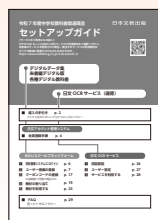
朱書編



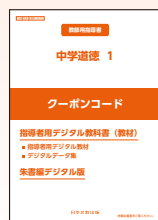
解説編



セットアップガイド



クーポンコード



デジタルコンテンツ

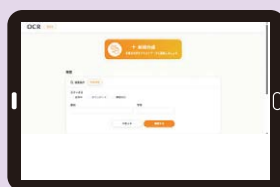
朱書編デジタル版



指導者用デジタル教科書
(教材)・デジタルデータ集



日文OCRサービス



デジタルコンテンツ
紹介動画公開中！
ぜひセットアップ
しましょう！



日文の Web サイト

日文 🔍



心が動く、その先へ。

日本文教出版



はじめに

みなさんは明日の時間割に「道徳」という言葉を見つけたとき、「不安」と「困惑」が入り混じった気持ちになったことはありませんか。その理由は、多忙のため十分な教材研究や準備ができないからかもしれません。

他にも、道徳科という自分の専門外の教科に取り組むことへの「ためらい」や、子どもたちにどのような力をつけさせればよいのかが分からない「困り感」を抱いていること、さらに道徳科そのものに自分が慣れ親しんでいない、つまりは経験からイメージできない「分からなさ」があるのかもしれない。

でも、私は、この「分からなさ」こそが、道徳科の授業をするうえでの大切な出発点だと思います。道徳科は、子どもたちだけでなく教師も一緒になって、正解のない問いに向かっていく、「分からなさ」から始まる「学び」の共同作業なのです。

教師が抱く道徳科への「不安」や「分からなさ」は解消すべきものですが、そのような感情を抱くこと自体は、否定されるべきではありませんし、その感情を受け入れながら、よりよい授業をつくるために努力していくことが、教師としての成長の入り口であってほしいと願います。

教科書で子どもたちが学ぶものは、教科書そのものではなく、そこに書かれた様々な価値についてです。

それらの価値の意味を知ることや、価値を実現するための自他の関わりについて、試行錯誤し、自分なりの「答え」や新たな「問い」を見つけていくことが、教科書での「学び」だと思います。

本資料が、今日も学校現場で奮闘されている先生方と不確かな未来を生きていく子どもたちが、よりよく生きていくための道徳性を培う一助になればと考えています。

そもそも指導書とは？

指導書は、経験が少ない教師にとっての「授業マニュアル（手引き）」と思われるがちです。しかし、決してそれだけではありません。指導書の活用は、経験の多少に関係なく、全ての教師の教科書（教材）研究に役立ちます。そして、画一的な授業ではなく、一人ひとりの教師の持ち味やアイデアを生かした、多様で創造的な授業づくりにつながるのです。つまり指導書は、「分からなさ」で立ち止まっている教師を、教科書での学びの世界（授業）にいざなう「ガイダンス」にもなり得るのです。

1

指導書の“ここが変わった！”

1 「ねらい」がより具体的に！

令和7年度版の指導書は、令和3年度版と比べ、各学習指導案の「ねらい」がより具体的に設定されています。

解説編 p.48「ねらいについて」

■ ねらいの例 1年「私は清掃のプロになる」

令和3年度版

働くことを通じて、喜びや生きがい、社会とのつながりを実感し、社会に貢献しようとする実践意欲を育てる。



令和7年度版

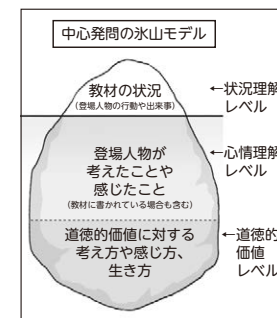
技術を磨くだけでなく、他者を思いやり心を込めて働くことが、自分の仕事の価値向上と充実した生き方につながっていくことの自覚を通して、社会や人々に貢献しようとする実践意欲を育てる。

ねらいの下線部には、本時の学習でねらう「道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方」が生徒の振り返りに出てきそうな言葉で具体的に書かれています。

これにより、生徒の発言からねらいに近づくキーワードを見つけやすくなり、補助発問や問い返しを適切に行いやすくなりました。

ねらいの下線部は「唯一の正解」ではなく、あくまで授業を通して目指していく「大きなゴール」として設定されていることを覚えておきましょう。

解説編 p.18「氷山モデルを3層で考える」



2 「Q & A」がより詳しく・見やすく！

解説編には、「道徳教育の充実を図る Q & A（以下、Q & A）」が付属していることをご存じでしょうか。令和7年度版の「Q & A」は、令和3年度版の内容をアップデートし、さらに詳しく、見やすい紙面に再構成されています。「分からなさ」を抱えたまま授業を行う前に、一度「Q & A」を見てみることをおすすめします。あなたの疑問に対する回答やヒントがきっと見つかるはずです。

解説編 pp.24-47「Q & A」

■ 「Q & A」の例 「Q 5 道徳科の指導の工夫には、どのようなものがありますか？」

解説編 p.32

道徳教育の充実を図る Q&A

Q5 道徳科の指導の工夫には、どのようなものがありますか？

生徒と考える授業のためのコツを紹介します。

発問の工夫①

1 教材の仮面性を理解する

授業の中で、登場人物の立場や考えに沿って生徒に発言させることがありますが、これは、登場人物に託して、生徒自身のこれまでの経験を想起させるから読ませることになります。これを「仮面の機能」と言います。

2 「仮面の機能」を生かす発問のポイント

中学生は、これまでの自己の経験を思い出しながら教材を読むようになるため、いわゆる「展開後段」が必要ない場合もあります。そこで、「仮面の機能」を生かした発問を行ったうえで、「そんな経験があるの？」「なぜ、そう考えたの？」「同じような経験のある人はいる？」といった問い返しを駆使して、登場人物の経験や人間性を自分ごととして考えられるようにすることが大切です。

3 「仮面の機能」を生かす具体例

教材「足袋の季節」で「五十銭玉だったね」と言われた場面

発問A「あなただったら、どうするか？」

→人間の弱さ・強さを考えにくい発問です。

発問B「登場人物はどうすべきだったか？」

→分かったことを答わせる発問です。生徒は、何かいえないことなのか分かっています。

発問C「このことを、どう思うか？」

→その行為を、第三者的・客観的に、批判・論評させる発問です。この問いだけでは生徒が自らに問いかける自己対話が成立しません。

発問D「登場人物はどんなことを考えたか？」

→生徒は、登場人物という「仮面」を被って、自分の体験と重ねて思いを語ることができます。

発問の工夫②

1 教材から答えを読み取るような発問

中心発問は、教材に書かれていることではなく、教材には書かれていない登場人物の思いや、道徳的

2 「なぜ」と問う発問

「なぜ」は使い方によって教材の読み取りになってしまっている場合があります。

次のページからは、私のご案内します。指導書活用のポイントと一緒に見ていきましょう！



【朱書編】で効率的に授業準備を行った後は、【解説編】の学習指導案でさらに教材研究を深めていきましょう。
ただ、教材研究を進めるにあたり、次のような悩みがあるのではないのでしょうか。



授業者として具体的にどんな視点で教材を読めばよいのか分からない……。



授業改善に取り組みたいが、まず何から始めればよいのか分からない……。

【解説編】では、これらの悩みを解決するヒントが具体的に示されています。ここからは、【解説編】の読み方をご紹介します。

「解説編」は必要ところに絞って読もう！



【解説編】にはさまざまな内容が掲載されていますが、教師の実態として、全てを網羅的に読む時間の余裕はありません。
そのため、「必要ところに絞って読む」ことが活用のポイントです。自身の「分からなさ」を解消しながら、着実に教材研究を進めましょう。

解説編 掲載内容

- ・ 監修の言葉
- ・ 校閲の言葉
- ・ 『中学道徳 あすを生きる』編集の基本方針
- ・ 教師用指導書の構成
- ・ 10分で分かる！ 道徳教育・道徳科のキホン
- ・ 10分で分かる！ 道徳科の授業のキホン
- ・ 道徳教育の充実を図る Q & A
- ・ 学習指導案の構成、ねらいや発問について
- ・ 学習指導案
- ・ 内容項目別 教材一覧
- ・ デジタルコンテンツ一覧
- ・ 日文 OCR サービスについて

1 「主題名／内容項目／ねらい」をまず確認

「主題名／内容項目／ねらい」は【朱書編】にも掲載されていますが、【解説編】でも再度確認しましょう。道徳科の授業で「深い学び」を実現するためには、教材を通して生徒に何を考えさせたいのかを教師がきちんと把握している必要があります。

特に「ねらい」については、授業準備を進める中で見失いがちになるため、ねらいを達成できる計画になっているか、何度も照らし合わせるようにするとよいでしょう。【質】

2 「評価のポイント」は授業準備でこそ重要

「ねらいについて」は生徒の学習状況を見取る視点、「指導方法について」は教師の授業改善の観点です。そうした視点・観点をもったうえで授業をすることが、指導と評価の一体化につながります。【質】

評価のポイントは例ですので、自分なりの視点・観点を設定して授業を行うと、「ねらい→指導→評価→改善」といった PDCA サイクルに基づく授業改善を無理なく進められます。【質】

3 「教材分析」で授業者として教材を読もう

【朱書編】では、まず学習者の視点で「読み物」として教材を読みました。一方、【解説編】では、授業者の視点で「考えさせる材料」として教材を読むことが必要です。【質】

「教材分析」は授業全体を略図で示しているのので、短時間で授業の基本的な骨格と要点を捉えることができます。【短】

授業の大枠を捉えたうえで教材本文を読み直すことで、教材のどこに生徒の学びがあるか、どこで考える時間を取って深めればよいかなど、指導や時間配分の工夫について構想を練ることができます。【質】

また、「教材分析」にある「発問の意図」を確認し、「何のためにそれを問うのか」を明確に自覚することが、ねらいを外さない指導につながります。【質】

なお、授業者の発問の意図以上に生徒の発言の意図を大切にすることがあります。なぜなら、生徒の発言の内側にある意図を捉えながら授業を進めることが、真の生徒理解につながるからです。

22 夜のくだもの屋

解説編 2年 p.106 「学習指導案」

生徒用／pp.110～113

●主題名／内容項目／ねらい

- ◆主題名：思いやりと感謝
- ◆内容項目：B-(6)思いやり、感謝
- ◆ねらい：人間はさりげない善意や深い思いやりによって支えられ守られていること、そしてそれらに対して感謝することの難しさを自覚し、思いやりと感謝の心をもって人と接しようとする態度を育てる。

●主題設定の理由

- ◆指導内容について：社会の発展と共に生活が豊かになる一方で、互いに助け合いながら生活していることを実感しにくくなっている。私たちは、多くの人々の善意や支えによっていまの自分があるにもかかわらず、そのことを自覚し感謝することがなかなか難しいのである。さりげない思いやりのもつ温かさを自覚するとともに、他人の善意や思いやりに満ちた言動に対して、素直にありがたいと感じられる心が求められている。
- ◆生徒の実態について：中学生の時期は、多くの人々の善意に支えられていることに気づいたとしても、そのありがたさを素直に受け止められず、見過ごしてしまうことがある。そのため、思春期特有の照れや恥じらいを乗り越え、自分を支えてくれている人々に対して素直に感謝の気持ちを伝えられるよう指導したい。
- ◆教材について：合唱部の練習後、暗い夜道を一人下校する主人公の少女を心配し、少女が通り過ぎるまで

店のあかりを消さないでいてくれたくだもの屋の温かな思いやりが感じられる教材である。くだもの屋のおばさんが歌う合唱曲を通して、店のあかりが自分のためであったことに少女は気づき、驚きとともに感謝の気持ちになる。くだもの屋と少女のほのぼのとした心の交流を通して、ねらいに迫りたい。なお、多くの学校では学校行事として合唱コンクールを行っているため、その時期に本教材を扱うと少女の気持ちにより一層迫ることができる。

●評価のポイント

- ◆ねらいについて：周りの人の善意や思いやりのもつ温かさや深さに気づき、それに感謝しようとする発言や記述が見られたか。
- ◆指導方法について：登場人物の思いを多面的・多角的に深く考えさせることができたか。

●参考情報

- ◆教材理解：本教材は、新潟県上越市出身の児童文学作家、杉みき子さんが書いた『小さな町の風景』の中に収められている。1980年代の作品で、いまの生徒には遠い時代ではあるが、くだもの屋さんの優しさは時代を超えて伝わるものである。町のモデルは作者が住む上越市の高田である。他作品（1年生掲載の「旗」など）も人と人のきずなや支え合いを感じる温かいものばかりなので、教師が読んで聞かせるのもよい。

人間を読む！教材分析（教材の流れから）

教材の流れ	主人公の心の動き	発問	発問の意図
合唱の練習で帰りが遅くなった主人公の少女は、人通りの少ない夜道を歌いながら歩いていた。	寂しい、心細い。一方で、勝手に伸び伸びと歌えるのが楽しい。	夜遅く人通りの少ない帰り道での少女は、どんな気持ちだったのだろう。	少女の心細い気持ちに共感させる。
小さなくだもの屋のあかりが、暗い道を照らしていた。	涙もなく心が落ち着いてきた。	くだもの屋のあかりを見たときの少女は、どんな気持ちだったのだろう。	あかりへの少女の思いと、あかりが毎日ついていたことを押さえる。
その後、コンクールが終わり、少女は平常の帰宅時間に戻る。	あのかくだもの屋が、いまでも夜遅くまで開いているかは知らない。	見舞いの品を買いに行ったときに、少女が思わず息をのんだのはどうしてだろう。	少女はくだもの屋のあかりの本当の意味は分かっていないが、「ありがとうございました。」と言ったことは押さえておく。
くだもの屋に友達のお見舞いを買いに行くと、おばさんがコンクールの曲をハミングしていた。	おばさんのハミングを聞き、思わず息をのむ。私の歌が聞こえていたんだ。	「ふたたび、声もなかった。」という少女は、何に対してこれほどまでに驚いたのだろう。	人間はさりげない善意や深い思いやりによって支えられ守られていること、そしてそれらに対して感謝することの難しさに気づかせる。
くだもの屋のあかりは少女のためだったことをおばさんから聞く。	あかりが温かく見えたのは当然だ。友達のお見舞いになる土産話にしよう。		

106

【解説編】 pp.52-137 の学習指導案は、原則として1教材あたり見開き2ページで構成されています（学習指導過程を1つ掲載）。そのうち、各学年6教材は、内容項目や学習方法が異なる2つの学習指導過程を含む計4ページで構成されています。生徒の実態や授業スタイルに合わせて活用しましょう。

解説編 p.48 「学習指導案の構成」

「主題設定の理由」は読み込まなくてもOK

研究授業などの際に活用する部分です。生徒がこの教材で学ぶ意義や発達の段階について書かれているので、生徒を成長途中の一人の人間として見つめ、教師がどう関わっていくのか、その基盤と方向性を確認できます。

短 質

「参考情報」は学級だよりでも活用

「参考情報」は、終末の説話で活用したり、学級だよりで授業の感想を紹介する際に併記したりすることができます。また、関連書籍を学校図書として購入しておけば、キャリア教育やSDGsなどとの横断的なカリキュラムにつながります。【質】

解説編 2年 p.107 「学習指導案」

この二次元コードからも「教科書QRコンテンツ」にアクセスできます。

22

夜のくだもの屋

学習指導過程		
学習指導過程 約9分 指導者用 朗読 音声、ワークシート WS、道具箱 写真 指導者用 朗読 音声、ワークシート WS、道具箱 写真		
学習活動（発問例、予想される生徒の反応）	補助発問例、問い返し例	指導上の留意点（発問の意図）
導入 3分 1 自分の生活を振り返る。 発問 〇見知らずの人から、親切にされたことはあるか。〔全体〕 ・落としたスマホが交番に届けられていた。 〔学校のキーボード〕「思いやりと感謝」について考えよう。	補助発問（生徒の様子を見て行う発問）、問い返し（生徒の言葉を受けて行う発問）は、生徒や授業の状況に応じて活用してください。→本書 p.51	〇教材の少女に共感しやすくするため、自分の経験を想起させておく。
展開 4分 2 教材「夜のくだもの屋」を読み、考える。 発問 ①くだもの屋のあかりを見たときの少女は、どんな気持ちだっただろう。〔画像 全体〕 ・明るくてよかった。・安心して帰れる。 発問 ②見舞いの品を買いに行ったときに、少女が思わず息をのんだのはどうしてだろう。〔写真 全体〕 ・どうして課題曲を知っているのだろうか。・毎日歌っているのを聞かされていたんだ。・大声で歌って、迷惑を掛けたのかな。 ★発問 ③「考えてみよう」「ふたたび、声もなかった。」という少女は、何に対してこれほどまでに驚いたのだろう。〔画像 1人 班〕 ・どうしてしてくれたのか分からない。・くだもの屋さんの優しい思いやりに感激。・見知らずの自分のためにしてくれていたなんて、すごい。ありがたい。	補助発問 あかりをつけていたくだもの屋と、ほかの店の違いは何？〔全体〕 ・商売に関係なく、見知らずの少女を気遣う優しさ。・ほかの店は、そもそも少女の存在に気づいていないかも。 補助発問 くだもの屋さんには気づいてほしかったのかな？〔全体〕 ・気づかれなくてもよかった。 問い返し くだもの屋さんへこんなことをできたのは、どんな心をもっていたから？〔全体〕 ・温かい心。・心の余裕。・見返りを求めない心。・相手に気を遣わせないさりげない思いやりの心。 補助発問 こういうさりげない思いやりに気づくことって簡単？難しい？〔全体〕 ・当たり前だに思ってしまう気づかないことがありそう。・気づくことも、それにきちんと感謝することもなかなか難しい。	〇暗い夜道の場面絵を提示し、あかりへの少女の思いと、あかりが毎日ついていたことを押さえる。 〇少女はくだもの屋のあかりの本当の意味は分かっているが、「ありがとうございました。」と言ったことは押さえておく。 〇くだもの屋さんの思いやりは見知らずの少女に向けられた、なんの代償も求めない深い人間愛であり、人間はさりげない善意や深い思いやりによって支えられ守られていること、そしてそれらに対して感謝することの難しさに気づかせる。
終末 5分 3 今日の学習を振り返る。〔写真〕 発問 ④「自分に+1」思いやりと、それに対する感謝の心について、大切にすることをまとめてみよう。〔1人 個人〕 ・思いやりは、見返りを求めず、さりげなく。・自分に対する思いやりに、きちんと気づけるようにしたい。・感謝の心は積極的に表したい。		〇自分のことばかりではなく、相手の気持ちや思いを考えて、積極的に感謝の思いを表すことの大切さを自分の言葉でまとめさせる。

板書例

〇見知らずの人から親切にされたこと
 ・落としたスマホが交番に届けられていた。
 〇夜のくだもの屋
 ・あかりをつけていたくだもの屋と、ほかの店の違いは何？
 ・商売に関係なく、見知らずの少女を気遣う優しさ。・ほかの店は、そもそも少女の存在に気づいていないかも。
 〇くだもの屋さんの思いやりは見知らずの少女に向けられた、なんの代償も求めない深い人間愛であり、人間はさりげない善意や深い思いやりによって支えられ守られていること、そしてそれらに対して感謝することの難しさに気づかせる。
 〇自分のことばかりではなく、相手の気持ちや思いを考えて、積極的に感謝の思いを表すことの大切さを自分の言葉でまとめさせる。

出典：作・杉 みき子『小さな町の風景』偕成社による

107

1 「予想される生徒の反応」で実際の生徒を想定

「予想される生徒の反応」は、自分が受け持つ生徒を理解する入り口です。自分のクラスの生徒だったらどんな反応を示すだろうかと、生徒の顔を思い浮かべながら想像することが教師の喜びですし、生徒理解に基づく授業づくりにつながります。短 質

2 さらに「補助発問」や「問い返し」を想定

生徒の反応に対する「補助発問」や「問い返し」も活用しましょう。「補助発問例、問い返し例」の列が新たに追加されたため、発問を通してねらいに迫るための道筋がより分かりやすくなりました。教師が意図的に問うことで、生徒の考えの意図を明らかにし、生徒自身も気づいていない深層の道徳的価値へたどりつかせることができます。生徒の実態に合わせて別の問い返しも想定しておきましょう。短 質 解説編 p.51「発問について」

3 「ねらい」に迫れているかを再確認

ねらいの下線部は、「学習指導過程」上では中心発問の「指導上の留意点」にも記載し、ねらいに迫るために中心発問や問い返しなどを行うことを意識できるようになっています。質 解説編 p.48「ねらいについて」

日々の授業実践を積み重ねることで、「分からなさ」は確実に解消されます！！



活プラス1 「Q & A」で授業研究をさらに深めよう

ここまでの授業準備を経て、さらに深い教材研究・授業構想がしたいという先生には、解説編 pp.24-47の「Q & A」を読むことをおすすめします。例えば、以下のような疑問について、役立つ情報が書かれています。



道徳科の板書に慣れていなくて不安。何か工夫できることはあるかな……。

解説編 p.33 では、道徳科での「板書の工夫」が紹介されています。板書のルールを作っておくことで、多様な生徒の発言を整理しやすくなり、より深い学びへとつながります。質



授業構想はまず何から始めたらいいの？

指導案を一から作ろうとしたとき、何から始めてよいかわかるかもしれません。解説編 p.31「授業構想の基本的な流れ」を読んで、生徒に考えさせたいことを一貫して意識した学習指導案を書く方法を押さえましょう。短 質

解説編 p.31「Q & A Q4」	
1 授業構想の基本的な流れ	
学習指導案は、上から順番に書くのではなく、右記の順で構想すると忘れにくくなります。特にねらいの構想が重要で、この教材から学べる「道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方」は何か、それが中学生的発達段階に合った学びなのかを意識し、具体的に構想しましょう。〔→本書pp.48-51〕	①道徳的価値に対する生徒の実態把握 ②教材分析（場面と主人公の心の動きを整理） ③ねらいとめあての構想 ④中心発問と問い返しの構想 ⑤基本発問や補助発問の構想 ⑥板書の構想

解説編Q & A 掲載内容

- ・道徳教育の充実を図る Q & A
- Q 1 道徳教育と道徳科の評価は、どうすればよいですか？
- Q 2 評価を授業改善に生かすには、どうすればよいですか？
- Q 3 発問「自分に+1」の意図はなんですか？
- Q 4 道徳科の授業を構想するポイントは何ですか？
- Q 5 道徳科の指導の工夫には、どのようなものがありますか？
- Q 6 教科書別冊の「道徳ノート」は、どのようなものですか？
- Q 7 道徳教育推進教師は、どのようなことをすればよいですか？
- Q 8 指導計画はどのように立てればよいですか？

これまでの準備を基に、
朱書編とデジタルコンテンツを活用して授業を楽しもう！



朱書編 3年 pp.22-25

4 使い手を驚かせて魅了する

デジタルコンテンツの一部は教科書QRコンテンツとしてweb公開しており、生徒用端末からも閲覧可能です。

デジタルコンテンツがある場合はアイコンがついています。

教材に対応するデジタルコンテンツを一覧で見ることができます。

デジタルコンテンツの使い方について

1 デジタルコンテンツとは

デジタルコンテンツとは、次のものをさします。

- 教科書QRコンテンツ
- 指導者用のデジタルコンテンツ・サービス
 - ・指導者用デジタル教科書（教材）
 - ・デジタルデータ集
 - ・朱書編デジタル版
 - ・日文OCRサービス

2 アクセス方法

- 「教科書QRコンテンツ」

教科書本冊または道徳ノートの二次元コード、指導者用デジタル教科書（教材）からアクセスできます。
- 指導者用のデジタルコンテンツ・サービス

専用のサイトでセットアップすると使用できます。詳しくは、「セットアップガイド」を確認しましょう。

3 一覧で確認しよう

解説編 pp.140-143 では、デジタルコンテンツを一覧で見ることができます。短

解説編 pp.140-143 「デジタルコンテンツ一覧」

教材名	種別	コンテンツ名
全教材	QR	心情メーター ②
道徳	QR	シンキングツール ②
	QR	フリーワークシート ②
0	QR	道徳科での学びを始めよう！ ②
	QR / 指導者用	道徳科での学びを始めよう！ ②
	QR	ワークシート ②
1	QR	高橋陽一さんからのメッセージ ③
	QR / 指導者用	高橋陽一さんからの紹介 ③
	QR / 指導者用	朗読 ③
	QR	ワークシート ③
	指導者用	「キャプテン翼」(公式サイト) ③

デジタルコンテンツはクラウド配信のため、次のようなメリットがあります。

- ・一度セットアップすれば、次回以降も簡単にアクセスできる。
- ・常に最新版が使える。
- ・端末や場所を選ばずに使える。

ぜひセットアップして活用しましょう！

【導入】動画で生徒を引き込む

朱書編を基に導入発問をした後、教材によっては動画を見せましょう。生徒の心を動かす臨場感があり、興味関心を高める効果もあります。特にオーロラや大藤のような自然のものがおすすめです。質

また、動画の利点は、映画館で映画を見たときのような一体感が得られることです。一人ひとりの捉え方は多様ですが、動画を見たという共通の土台から意見交換を始められます。質

動画はほとんどが5分以内ですので、時間配分を工夫して活用しましょう。短 質



【教材提示】範読時間を有効活用

朗読音声を活用すると、自分で範読するよりも心の余裕が生まれ、授業中の視野が広がります。たとえば、再生中に掲示物を黒板に貼る、次の発問を確認するなど時間を有効活用できます。短 質

また、教材によっては教材アニメーションを活用することで、登場人物の心の動きをよりリアルに感じさせることができます。質

さらに、それらを再生中に教材を読む生徒の様子を観察することも大切です。教材のどこで生徒の表情が変わるのか、「うなずく」「メモをする」「退屈そう」などの様子を観察することで生徒理解に基づく指導につなげることができます。質

なお、教材を分割提示する場合は、生徒に唐突感を与えないよう事前に伝えておきましょう。

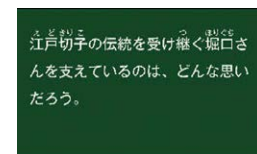


【展開】場面絵などは自分なりに活用

朱書編に沿って授業を進める中で、登場人物の顔絵、場面絵・写真、ワークシートなどを活用しましょう。これらはデジタルデータ集に収録されています。印刷して黒板に貼る、電子黒板で提示するなど活用していきましょう。短 質

また、指導者用デジタル教科書（教材）にはタイマーや発問の拡大表示、質問文を入力した状態で生徒に共有できる指導者用心情メーターなどの機能が多数用意されています。質

解説編 p.34 「小道具の利用」



必要に応じて一つずつ授業に取り入れて、1年間を通して機能の活用術を向上させていきましょう。焦らず長い目で自分の成長を待つ姿勢も必要です。質

【終末】動画で生徒の心にメッセージを届ける

終末では、朱書編にある参考情報を基に説話をしてもよいでしょう。

また、動画の中には、教材中の人物からのメッセージ動画もあります。生徒に教材を身近に感じさせるだけでなく、人物の生の声としても活用できます。自分たちの授業にゲストティーチャーとして登場してもらうように活用すれば、そのメッセージは自分たちに向けられたものとしてより深く生徒の心に届くでしょう。質



研修は、取り組みやすいものから始めよう！



学校現場では、教師間で道徳科に対する意識と取り組みの差があることは否定できません。どうやって全教師の心のスイッチを入れるかは難しい課題です。

また、よりよい道徳科の授業のために自己研修したいと思っても、何からすればよいか悩むものです。そこで、**解説編**を活用してできる校内研修や自己研修のタネを数多く紹介します。

順番はありませんので、取り組みやすいものから進めましょう。

校内研修について

校内研修は、生活指導、学習指導などのさまざまな指導体制の基本単位となる「学年」で道徳科の指導を活性化することがスモールステップになると考えています。

解説編 p.42「校内研修の体制と具体例」を参考に、①研修の参加者（全員／学年（複数）／個人）と②研修内容（全体的／部分的）とを、柔軟に組み合わせてもよいでしょう（模擬授業の参加者は「全員」で、研修内容は「導入」についてのみ、など）。**質**

解説編 p.42「Q & A Q7」

校内研修の体制と具体例	
<p>1 初任者などを対象にした模擬授業</p> <p>初任者や道徳科の授業に苦手意識のある教師を対象に、教師を生徒役にして模擬授業を行います。「導入」「展開」「終末」それぞれの指導過程に沿って、授業者と観客者全員で意見を交換します。</p> <p>道徳科の指導の基本を押さえ、改善点を明らかにする研修です。道徳教育推進教師が模擬授業をした後、ほかの教師が授業者として模擬授業をしてもよいでしょう。</p>	<p>2 同じ学習指導案で授業をする（学年ごと）</p> <p>学年ごとに、教材分析と学習指導案の作成を共同で行い、それに基づいて授業を行います。授業後、教師の発問と生徒の反応、指導過程、授業全体の印象などを協議します。これにより、教師の授業力の向上や、その学年の課題の解決が期待されます。</p> <p>また、学年内の教師が持ち回りで学習指導案の作成を行い、授業前後に協議するようにすると、各教師の授業準備の負担を減らすことができます。</p>
<p>3 同じ学習指導案で授業をする（全学年）</p> <p>全ての学年、学級で同じ学習指導案に基づいて授業を行います。</p> <p>生徒の反応から、発達の段階の違いや、教材や道徳的価値の受け止め方の違いなどが分かり、生徒理解や生徒の道徳性に係る成長の様子の評価などに役立ちます。</p>	<p>4 外部の指導者の活用</p> <p>地域公開授業などの際に、保護者や地域の人、外部の指導者を招いて研修会を開きます。</p> <p>授業の展開や教材などについてさまざまな意見を聞くことで、家庭や地域との連携を深めながら授業の改善点を明らかにし、今後の実践に役立てることができます。</p>

自己研修について

実は、日頃に行っている授業準備そのものが自己研修だと私は考えています。

授業前に時間をかけて思索することも大切ですが、**まずはやってみて、授業後の振り返りに時間をかける**という考え方もあります。ぜひこの資料を参考に、気軽に挑戦してみましょう。**質**



学校内の雰囲気づくりについて

全ての教師が授業者として同じ目線で授業をつくらることが最初のスイッチかなと思います。そのために、**解説編**を活用しましょう。全員が**解説編**全てを通読するのはハードルが高いので、一緒に学ぶ部分と分担する部分に分けるとスムーズです。特に**解説編** pp.24-47「Q & A」はトピックごとコンパクトにまとめられているので分担しやすいです。**短**

計画的に分担を変更することで、**解説編**の目を通す部分も増え、共通理解が図られていきます。年度当初に研修について合意形成できなくても、年間を通して**解説編**を活用しながら実践を重ねることで、次第に合意形成が実現されるでしょう。**質**

発問について

発問は、指導の柱であり教師がいちばん悩むものでもあります。**解説編** p.32「発問の工夫」を活用し、発問の意図や効果、注意点を理解しながら、**学級の実態に**応じた発問づくりをしてみましょう。**質**

解説編 p.51「発問について」では、「中心発問」や「問い返し」など、道徳科の理解を深めるために必要不可欠な用語の定義について説明されていますので、こちらも併せて確認し、共通理解を図りましょう。**質**

解説編 p.51「発問について」

発問について		
全ての発問は、発問の構成全体でねらいに迫るために設定しました。下記の内容は、あくまでも本書の編集にあたって整理したものであり、各語の定義や用法は弊社独自のものです。教材研究や授業研究の参考としてご覧ください。		
種類	教科書への掲載	発問の趣旨
導入発問	—	ねらいとする道徳的価値または教材への興味・関心を高め、問題意識をもつための発問。
学びのキーワード（めあて）	教科書側	ねらいとする道徳的価値に対して問題意識をもつための、学習のゴールではなく出発点となる言葉。学習指導過程では、この言葉を取り入れた問いの形で、学習のめあてを提示。
基本発問	—	中心発問に向けて、理解を深めたり、道徳的な問題点を整理したりする発問。
補助発問	—	生徒の様子を見て行う発問。生徒の意見を広く聞きたいときや、理解や意見の深まりを期待したいときなどに設定し、中心発問に向けて考えやすくする。
考えてみよう（中心発問）	教材末尾	ねらいに迫るための中心発問。「問い返し」とセットで、本時の学習でねらう「道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方」に迫るために設定。「自分との関わりで考えやすいか」「多面的・多角的に考えやすいか」「教材の内容（具体）と道徳的価値（抽象）とを橋渡しして、問い返しと併せて生徒の考えを深めやすいか」といった観点で設定。

指導体制について

解説編 p.43 には、「ローテーション道徳」の説明があります。方法や意義を確認し合うことで、全員が納得感をもって取り組めるようになります。**質**

解説編 p.43「Q & A Q7」

指導体制の具体例①	
<p>1 ローテーション道徳とは？</p> <p>年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳科の授業を行うことです。教師は各学級で同じ教材を使って授業を行います。</p> <p>→学習指導要領解説 道徳編p.114</p>	<p>2 取り組みのメリット①</p> <p>・教師が自分の専門教科や得意分野に関連のある教材で道徳科の授業を実施できます。</p> <p>・何年度も同じ教材で授業を行うことで、教師の指導力の向上につながります。</p> <p>・全教師が道徳科の授業に関わることで、研修の充実、組織の活性化につながります。</p>
<p>3 取り組みのメリット②</p> <p>・副担任や教頭、校長なども加わると、学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり、普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見できるなど、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握できます。</p> <p>・複数の教師での評価ができます。</p>	<p>4 取り組みのメリット③</p> <p>・教師がお互いの授業を見合うことができようになります。短時間でも参観することが大切です。</p> <p>・「次はどんな授業だろう」「○○先生の話が聞きたい」「○○先生と話してみたい」のように、生徒が楽しみにして道徳科の授業を待つようになります。</p>
<p>5 留意点（年間指導計画に位置づける）</p> <p>きちんと年間指導計画に位置づけ、計画的に実施します。なお、学級担任と生徒の関係性を構築し始める年度初めには位置づけられないほうがよいでしょう（学級担任が行う授業が済むため）。また、その学年（学校）が重点化している内容項目（年間複数回取り上げるもの）から選ぶとやりやすいです。</p>	<p>6 研修に生かす</p> <p>全教師が道徳科の授業を実施することとなります。全教師共通の話題となるため、学習指導案や指導と評価の実際を持ち寄ることで、研修に生かすことができます。複数回行った授業で改善した指導方法、評価方法を口頭として記録すると、共有財産になります。板書で使用する掲示物なども同様です。</p>

また、別の選択肢として「チーム・ティーチング（複数指導）」があります。1つの授業を学年の複数の教師が分担して指導する方法です。事前の打ち合わせや指導上の難しさはありますが、それぞれが得意とすることやできそうなことを組み合わせ、**できるだけ多くの教師で授業をつくる「共通の場」を増やしていく**ことを意識するとよいでしょう。**質**

評価について（評価の方法）

個人内評価は、集団としての学びの過程から、生徒一人ひとりが何を感じ考え、どのように成長したかを記述するものと捉えることができ、これこそが学校ならではの学びと言えるでしょう。

解説編 p.26「評価文の構成」で紹介されている評価文の二段落構成は、通知表の記述に不慣れな教師にとって、書き方だけでなく個人内評価の視点や考え方としても参考になります。**短 質**

解説編 p.26「Q & A Q1」

評価文の構成	
<p>記述式評価の例として、次のような二段落構成が考えられます。</p> <p>前半：大きく3つのまとまり</p> <p>道徳科でどのような学習状況や道徳性に係る成長の様子が見られたか、内容項目ごとではなく、また授業1時間ではなく学級や年間といった一定の時間的まとまりの中で見えてくるように記述する。</p> <p>後半：具体例</p> <p>前半の具体例（生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子が記述された欄を例）として、どのような思いや考えをもったか、深められたかを、生徒の発言・記述など観察可能なことを基に記述する。</p>	<p>自分の考えを整理しながら、自分と違う考えも大切にしようとする姿が見られるようになりました。（40字）</p> <p>特に「言葉の力」の学習では、「ふたつでは無理なことが見えてきたこと、お互いに相手の考えや気持ちを尊重しながら話し合うことが大切」と書き、インターネット上での相互理解について考えを深めていました。（60字）</p>

評価について（基本的な考え方）

解説編 p.24「評価全体の基本的な考え方」を読むと、道徳科の評価は単に授業だけではなく、生徒の成長を前向きに支援する教師の人間的な関わり方であることが理解できるはずだ。**短 質**

解説編 p.24「Q & A Q1」

評価全体の基本的な考え方	
<p>1 評価の意義</p> <p>学習指導要領に「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とあるように、評価には2つの目的があります。</p> <p>① 生徒にとって、自らの成長を実感し、よりよく生きようとする意欲の向上につなげる。</p> <p>② 教師にとって、指導の成果を確認し、指導の目標や計画、方法の改善、充実につなげる。</p>	<p>2 道徳性そのものを評価するのではない</p> <p>学校の教育活動全体を通して行う道徳教育は人格の完成を目指すものです。その基盤である道徳性は生涯にわたって身につけていくべきもので、数値や評価基準などで評価することは適切ではありません。ただし、よりよく生きようとする生徒の道徳性に係る考えや意欲などの学習状況や成長の様子を評価することはできます。学級担任だけでなく学校全体で成長の様子を積み重ね、よりよい評価を心掛けましょう。</p> <p>→学習指導要領解説 道徳編p.111</p>
<p>3 「道徳教育の評価」と「道徳科の評価」の違い</p> <p>「道徳科」の評価とは指導要領や通知表に記載するものは、道徳科の授業内での「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」です。これは、道徳科で学んだことによって、日常の姿や行動がよりよくなったかどうかを判断できないためです。一方、行動面も含めた「道徳教育」の評価は、行動の記録や総合所見として記載することになります。</p>	<p>4 生徒を勇気づける評価の働きを理解する</p> <p>道徳教育の評価では、教師が、他者との比較ではなく生徒一人ひとりの人間的な成長を見守り、生徒自身がよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気づける働きをもつことが求められています。評価は、教師と生徒の温かな人格的な触れ合いに基づき、お互い納得のうえで共感的に理解されるべきものです。</p> <p>→学習指導要領解説 道徳編p.109</p>

そして、「評価とは授業後に行うものである」という考え方を改め、**評価の考え方と生徒理解を基にして授業を行う**考え方に変わっていきましょう。

なぜなら、**生徒の言葉に内在する意図を、よりよく生きようとする未来志向的な意志（will）と理解することが、授業の雰囲気明るくし、安心感と充実感をもつて対話ができる授業の基盤となる**からです。これが指導と評価が一体化した様相であり、理解、共感、次への見通しをもたせる形成的評価は、主体的に学ぶ生徒の育成につながります。**質**

また、**解説編** p.24「道徳教育の評価例」を読むことで、**生徒一人ひとりの道徳性は道徳科の授業だけで育むのではなく日常的な生活指導（学校教育全体での道徳教育）によって高めていく**ことが理解できます。

解説編 p.24「Q & A Q1」

道徳教育の評価例	
<p>1 全生徒の「よいところ発見フォルダ」の活用</p> <p>ある学校では、校務PCの共有スペースに全生徒名簿の「よいところ発見フォルダ」を設置し、全生徒のよいところ発見やよい成長を見つけたときに全教員が記入し、評価に活用しています。道徳性に係るものもあれば、小さな親切運動のようなものもありま。毎月の生徒の実態を把握し、実践意欲やよい事実を知る機会になっており、通知表の総合所見などに活用されています。枠組を考案して、全小中学校に活用を促す教育委員会も出てきています。</p>	<p>2 保護者に、生徒の道徳性に係る成長を聞く</p> <p>評価は、指導と一体化して即実施できれば効果はありますが、生徒の道徳性に係るよりよい変化は把握しにくいものです。「道徳ノート」や教師による観察も学校生活に限定されます。ある学校では、保護者に生徒のよいところについて簡単なコメントを書いてもらっています。最初は「書きにくい」と言われたようですが定着しました。三者面談などで、教師が生徒・保護者と一緒に生徒の成長の様子をよい点で述べ合う実践も試みられています。直接語り合う手法も活用したいものです。</p>

話し合いの工夫について

【解説編】p.33「話し合いの工夫」には、「授業中の話し合い活動」について、生徒の発言を広げる工夫だけでなく、**人数や机の配置例**が示されていますので、それらを参考にして授業で試してみるとよいでしょう。【質】

解説編 p.33「Q & A Q5」

話し合いの工夫 → 話し合いを工夫して、生徒一人ひとりの考えを深化させよう。

1 「縦」から「横」へ
生徒と教師が一対一の「縦」の応答を繰り返すだけでは授業が深まりません。ねらいに沿った意見が出なると、教師はあえて分からないふりをして、その意見にふたすといき進めたり生徒を指名したり、「説明できる人いる？」などと周囲に問いかけたりして、「横」の話し合いになるよう心がけよう。

2 意見だけでなく理由を聞く
なぜそのように考えたのか、理由を聞くことが大切。行為や物事の結果ではなく、動機や考え方を議論する。もし偏った意見しか出ない場合には、教師があえて反対の意見を表明し、生徒の理由をさらに引き出すようにするのも効果的。

3 話し合いの構成は意図的に
話し合いでは、なぜそのグループにするのか、構成をしっかりと考えて行いましょう。隣の人と意見交流するペアワークでは、自分の意見を聞いてもらい、また相手の意見を聞くことで、考えを整理し思考を深めることができます。短時間で実施でき、全体に意見を発表する下準備としても効果的です。グループワークでは、より多くの意見を出し合い、多面的・多角的に考え合うことができます。3～4人で、司会役などを決めると進めやすくなります。

4 話し合いで納得解を目指す
道徳科の話し合いの目的は、一つの考えに合意形成することではなく、**生徒一人ひとりが人間としての生き方についての考えを深めること**です。そのため、ある考えに対して同意できてもダメでも、「なるほど、確かにそうだね」「そういう見方もできるな」のように、思い当たる節があっても自分の中で言語化できていない考えは自分が納得でき周囲の納得も得られる解（納得解）を目指して話し合いを進めよう。

グループワークでの机の配置例

特別支援教育について

【解説編】pp.9-11「インクルーシブ教育システムの構築と授業における工夫や配慮」では、様々な特性のある子どもたちへの支援方法が示されており、校内研修に限らず、**校内の特別支援委員会や配慮を要する生徒の保護者との面談に向けた基礎資料としても活用**できます。

解説編 p.9「監修の言葉」

インクルーシブ教育システムの構築と授業における工夫や配慮
—特別支援教育の視点から—
特別支援教育・カウユニバーサルデザインに関する機関
星美学園短期大学伊勢総合研究所委員研究員 大内 進

1 「インクルーシブ教育システムの構築」
(1) 障がい者の権利条約とインクルーシブ教育
新しい中学校学習指導要領では、特別支援教育について、これまで以上に踏み込んだ記述が認められます。我が国は、2007（平成19）年に「障害者の権利に関する条約」に署名し、平成26年に批准しました。本条約の第24条には、障がいのある子どもと障がいのない子どもが同じ場で共に学ぶという、いわゆるインクルーシブ教育が規定されています。これを受けて国内法の整備も進みました。

(2) 「インクルーシブ教育システムの構築」とは
法令は、基本的に憲法・条約・法律の順に従って定められるので、これまでのいわゆる健常児と障がい児を分離して教育するという特殊教育の考え方を改め、「インクルーシブ教育システムの構築」へと制度改革がなされたということになります。といってもドラフト的な転換がなされたわけではありません。障がいがある子どもの特別な場での教育のしくみを維持しながら社会の実現をめざして「インクルーシブ教育システムの構築」を図っていくことになったのです。その後、学習指導要領の改訂の度に「インクルーシブ教育システムの構築」への対応の強化が図られてきました。

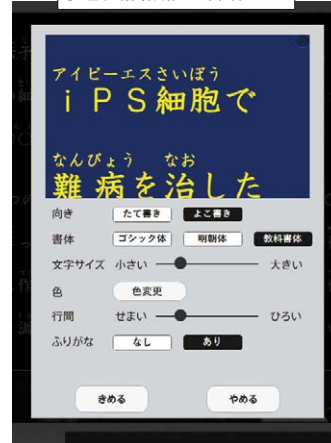
障がいの有無に関係なく、全ての生徒が共に学ぶ教室環境や教材・教具などの具体例が示されており、明日の授業から取り組むことができます。

また、上記の記事でも触れられていますが、指導者用デジタル教科書（教材）には、**背景色・文字色・書体・文字サイズ・行間の変更、白黒反転、総ルビ切り替え、文章の向き**の切り替えなどの機能が有り、特別な支援や配慮が必要な生徒の学びの充実を支えるうえで役立ちます。

日頃から一人ひとりの生徒の困り感や課題を理解し学習環境を整えていくことが、教育活動の基盤であり、教師としての責任であることは言うまでもありません。

ですから、**デジタルコンテンツ**は学習指導のためだけでなく、特別な支援を要する生徒のための配慮を含め、様々なニーズのある生徒が共に学び、主体的に学習に取り組める教育環境づくりのために活用する視点が必要です。そうした視点についても研修で深めていきましょう。

学習支援機能の操作画面



「道徳ノート」の使い方について

教科書本冊には、「道徳ノート」が付属しています。「道徳ノート」は、ワークシートとノートそれぞれのよい面を取り入れて作られています。【解説編】pp.38-41「Q & A Q6」を基に、どのような場面でのどのような活用ができそうか、研修のテーマにしてみたいかがでしようか。

1 進化した「道徳ノート」

■ 自由度が高く使いやすい！

- 全ページで発問欄が空白になったことで、発問を自由に設定し、記入できるようになりました。【質】
- 自由欄ができたことで、授業後の感想や教師・保護者からのコメントも記入しやすくなりました。【質】

■ 学びが1冊にまとまるので見取りやすい！

- 1年間の学びの積み重ねがポートフォリオのように1冊にまとまることで、生徒の心の成長を見取りやすくなっています。「学期末の振り返りページ」も活用すれば、生徒が自身の成長を実感しやすくなります。【質】

■ OCRサービスの活用で評価もスムーズに！

- 手書きの文字をデジタルデータ化するサービスが新登場。入力する作業時間を大幅に短縮し、評価や学級通信などに活用しやすくなっています。【短】

2 よくある疑問



毎回全ての欄に記入させなければならないの？

毎回の授業で全ての欄に記入させる必要はありません。例えば、「自分に+1」の欄にだけ記入させるという使い方でもOKです。

先生オリジナルのワークシートを使った場合は、授業後に「道徳ノート」に貼るという方法もあります。



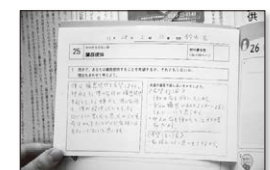
「道徳ノート」を使うと授業の幅が狭まってしまうのではないかと心配……。

「道徳ノート」の記入欄には罫線がないので、文字だけでなく図や表、絵なども自由に書き込むことができます。必要なタイミングで無理のない記入量で活用すれば、むしろ授業の幅を広げるツールとしても役立ちます。

解説編 p.40「Q & A Q6」

1 ワークシートを貼り付ける

発達の段階や授業内容によっては自作ワークシートを使うこともあるでしょう。その場合は、教科書QRコンテンツまたは指導者用デジタル教科書（教材）「デジタルデータ集」収録のワークシートを活用しましょう。印刷して配付し、生徒たちが記入した後は、そのまま「道徳ノート」に貼ることができます。



(イメージ)



教科書本冊と同じ二次元コードを掲載。「道徳ノート」紙面をデジタル化したワークシートにもアクセスできます。



「道徳ノート」を授業の内外でぜひ活用しましょう！





おわりに



私は指導書を、授業全体の広がりや、
「学び」の目的地（ねらい）にたどりつくための道を示した「地図」として、
日常的に活用してきました。

指導書を活用しながら学習指導要領の内容を自分の中に落とし込み、
時間をかけて教師としてのすそ野（知識）を広げ、
じっくりと授業改善を進めていくことが、
1年先、数年先の高い指導力につながります。

指導書を、画一的な指導マニュアルとしてではなく、
教師の学びを支え、自分の可能性を広げるガイダンスとして
活用することをおすすめします。
それが今まで気づかなかった自分らしさ（自分のよさ）の発見と成長に
つながると思います。

道徳科への「分からなさ」を出発点に、
子どもたちと教師が一緒になって
正解のない問いに向かっていく道徳科の授業を
共につくっていきましょう。

令和7年度版 中学道徳 指導書活用 私の提案

日文教授用資料〔中学校道徳〕
令和8年（2026年）2月13日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL : 06-6692-1261
FAX : 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33795

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL : 06-6692-1261 FAX : 06-6606-5171

東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL : 03-3389-4611 FAX : 03-3389-4618

九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL : 092-531-7696 FAX : 092-521-3938

東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL : 052-979-7260 FAX : 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL : 011-764-1201 FAX : 011-764-0690